

三原市長

岡田 吉弘 殿

要 望 書

令和6年10月25日

三原商工会議所

三原市の令和7年度の予算編成に対する要望について

平素から、市民生活の向上と地域経済の発展に向けてご尽力いただくとともに、商工会議所の事業活動に多大なるご理解とご協力を賜り厚くお礼申し上げます。

さて、現在の中小企業・小規模事業者は、電力や原材料等の物価上昇に加え、人件費の上昇の影響を受け、商品やサービス等に価格転嫁が追い付かない状況が続く、大変厳しい経営環境下に置かれています。

こうした中、少子・高齢化による労働者確保や地域文化の継承の問題、子育て環境の変化への対応、また、異常気象ともいえる気温上昇による全国各地で発生する災害等、地域で将来を見据え準備を進めておかなければならない問題が山積しています。

本所でも「地域総合経済団体」として地域社会の健全な発展を図るため、市内事業者の育成指導や、地域の賑わい創出のため取り組んでいるところです。

この度、三原市に対する要望について会員の意見を取りまとめ、令和7年度の予算編成において予算措置を講じていただきたく次の通り要望させていただきます。

今後も、市内の様々な課題解決のため、綿密な連携により情報交換をさせていただきながら、明るい三原の未来のために取り組んでまいりますので、何卒よろしくお願い申し上げます。

(要望事項)

(1) 地域の祭り継承のための支援

三原神明市・三原さつき祭り・三原やっさ祭り・三原浮城まつりなど、祭りを支える人たちの高齢化により、継承者や担い手の不足が加速しています。これらの祭りは、地域の魅力的資源でもあり、今後も継承していかなければならない文化であると言えます。

なお、神明市・やっさ祭り・三原浮城まつりは、中心市街地活性化計画にも挙げられている事業です。

つきましては、こうした祭りが永続的に継承できるよう、三原市としても深く関与いただき、人的・予算措置など、各方位からの支援をお願いいたします。

(2) 三原やっさ祭り第50回記念大会に向けた支援

三原市最大の夏祭り、観光振興、地域振興にも寄与している三原やっさ祭りは、来年第50回の記念大会を迎えます。これを契機に事務局体制の強化を図り、さらに充実した祭りとなるよう準備を進めております。

具体的には、「正調やっさ」、「創作やっさ」による全世代が楽しめるやっさ踊りの演出、担い手育成のための「子どもやっさ」による踊りの拡充、本郷・久井・大和も含めた全市をあげての祭りであるという一体感を醸成し成果を上げて参ります。

加えて、第 50 回を記念して、花火フェスタの拡充も行いたいと考えています。

また、やっさ祭り 20 周年を記念して創設された「三原やっさ太鼓」は、創設 30 周年記念演奏会を企画し、これまでご支援いただいた皆様へ日頃の成果を発表する機会を計画しております。

市民の期待も大きい第 50 回記念三原やっさ祭りの記念大会に対しまして、応分の予算措置をいただきますようお願いいたします。

本件は、(1) と併せて優先順位の高い要望と位置づけておりますので、第 50 回記念三原やっさ祭りに向けて早急な対応をくださいますようお願いいたします。

(3) 三原の食ブランド向上への取り組みの支援

三原市の名物は「タコ」と位置づけ、「タコのまち三原」として、三原市でもこれまで食文化の醸成に取り組んできた経緯があります。

しかし、海水温の上昇や栄養塩類の低下等の環境変化による生産力の低下とタコ漁師の廃業に伴い令和 5 年度以降の漁獲量が大幅に減少しています。

また、諸外国においてもタコを食べる習慣が広がったことにより輸入量も減少し、国内外産タコの価格が高騰している状況もあり、市内の飲食店等でタコが提供しにくい状況となっています。

この現状を改善するためには、三原産の地ダコに限定することなく、市内における流通量の増大を図ることも必要な対策であると考えています。

同時に、漁業後継者育成事業・漁業体験事業など、「タコが食べられるまち三原」を確立するための関連産業・漁業者の団体への支援をご検討いただきますようよろしくお願いいたします。

なお、三原の食のブランド向上に向けた取り組みとして進行中である「広島みはらプリンプロジェクト」および「三原名物水軍焼」につきましてご理解ご協力をいただいているところですが、さらに強力な広報戦略の継続が必要なことから、引き続きご支援いただきますようお願いいたします。

(4) 子育てに関する啓発活動

子育て世代にとって、子どもたちを遊ばせることのできる空間は重要で、三原市においても運動公園に大型の遊具が整備されています。しかし、近年の夏季においては「熱中症警戒アラート」が毎日のように発令される等の状況で、せっかくあるこうした施設が利用できない状況にあります。

友達と外遊びをすることは、子どもの体力や気力、協調性や自律神経の発達には必要不可欠です。市民に対する熱中症や外遊びの正しい知識に対する啓発を行っていただくようお願いいたします。

(5) 外国人労働者のための日本語学校の参加環境や住宅（賃貸）探しの支援

労働人口確保のため、市内企業においても、多くの外国人労働者の雇用が進んでいますが、外国人の働くことに対するマインドにも変化があり、より働きやすい環境を提供することが企業にとっても重要となってきています。

こうした中、1社でたくさんの外国人を雇用している企業では、企業内での日本語勉強会等の機会を提供されていますが、少人数を雇用する企業においては、そうした環境を提供することが難しいため、市内在住の外国人が日本語を学べる場を提供していただきますようご支援をお願いいたします。

また、外国人労働者を住ませるための住宅（賃貸）探しが、企業の労務担当者の負担となっています。空室となっている公営住宅などを賃貸物件として提供しやすいような施策についてのご検討をお願いいたします。

(6) コミュニティFMの運営支援

2014年、三原市からの要請を受け、本所においてコミュニティFMの調査研究を行い、研究会による報告書、事業可能性調査を実施し報告。その後、三原市からの要請を受け、運営会社㈱FMみはらの設立を行いました。

当初より、事業継続には、三原市の支援がなければ成り立たないということでの協力要請を行ったこの会社も、開局後すぐに西日本豪雨による大きな被害が発生し、その役割について、三原市民から大きな期待がよせられ、災害時には当初計画よりもきめ細かい対応に取り組んできました。

こうした中、物価や人件費の高騰等、災害時対応のための社員体制の強化などにより、運営に係る経費は増加しています。

については、三原市の防災の体制強化のためにも、切れ目なく継続した運営支援をお願いいたします。

(7) 防災・減災対策と中長期的な社会資本整備に係る予算確保

近年、毎年のように発生する豪雨、台風、地震などによる大規模災害は、市民の財産や社会生活の基盤であるインフラに大きな被害をもたらしており、防災・減災への着実な取り組みが改めて求められております。

国においては、激甚化・頻発化する自然災害に対し、強靱な国土づくりを図るため、「防災・減災、国土強靱化のための5か年加速化対策」が進められているところです。

市においても、市民の誰もが安全・安心に暮らすために、今後の中長期的な計画に基づき、防災・減災の取り組みを進めるとともに、道路や河川などの公共土木施設等の社会資本の整備と老朽化する社会資本の維持更新を図るための安定的・持続的な予算の確保をお願いいたします。

(8) 福山本郷道路（三原～本郷）の早期整備の推進

福山本郷道路の未整備区間（新倉町ランプから本郷 I C）が調査箇所位置づけられ事業化に向けた調査が進められることになりました。

未整備区間が整備されることにより、現道における渋滞の緩和、広島空港などへのアクセス向上、災害支援や物流機能の向上が期待されます。

ついては、未整備区間の早期事業化に向け、調査検討が速やかに進められ、設計業務及び工事着手が早期に実現するよう、継続して国や県に働きかけをお願いいたします。

令和 6 年 10 月 25 日

三原商工会議所

会 頭 森 光 孝 雅